

2026 年 9 月 18 日

インド・8月インフレ率は前年比+4.82%と、3ヵ月連続で4%超え

～コアインフレ率も4%を上回る伸びに加速、幅広くインフレ圧力が強まっている～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL : 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

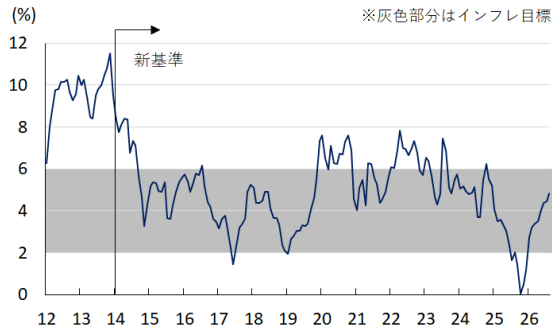
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/14(月)	(インド)8月消費者物価(前年比)	+4.82%	+4.80%	+4.45%
9/15(火)	(中国)8月鉱工業生産(前年比)	+5.2%	+4.8%	+4.5%
	8月小売売上高(前年比)	+0.4%	+0.8%	+0.6%
	8月固定資産投資(年初来前年比)	▲7.2%	▲7.2%	▲6.7%
9/17(木)	(ニュージーランド)4-6月実質GDP(前年比)	+2.6%	+2.2%	+1.7%
	(シンガポール)8月非石油輸出(前年比)	+46.2%	+35.3%	+24.1%
	(台湾)金融政策委員会(政策金利)	2.000%	2.000%	2.000%
9/18(金)	(ニュージーランド)8月輸出(億NZドル)	66.6	--	72.2
	8月輸入(億NZドル)	80.0	--	93.3
	(マレーシア)8月消費者物価(前年比)	+1.9%	+1.8%	+1.8%
	8月輸出(前年比)	+45.5%	+37.9%	+38.0%
	8月輸入(前年比)	+41.1%	+33.2%	+36.4%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド]～インフレ率に加え、コアインフレ率も4%(目標の中央値)を上回り、全般的にインフレ圧力が高まる～

14日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+4.82%となり、前月(同+4.45%)から加速して、3ヵ月連続でRBI(インド準備銀行)が定める目標(4±2%)の中央値を上回るとともに、20ヵ月ぶりの高い伸びとなった。前月比は+0.73%と前月(同+0.89%)からわずかに上昇ペースが鈍化したものの、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇基調が続いているほか、イラン情勢を巡る不透明感の高まりを受けた原油高によりエネルギー価格も上昇しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっている。食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も、前年同月比+4.16%と前月(同+3.87%)から加速して8ヵ月ぶりの高い伸びとなるとともに、4%を上回っている。前月比も+0.55%と前月(同+0.26%)から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの押し上げに加え、金融市場における通貨ルピー安による輸入物価の上昇も重なり、幅広い財で価格上昇の動きがみられる。さらに、サービス物価も幅広く上昇しており、インフレ圧力が全般的に強まっている様子がうかがえる。

図1 IN インフレ率の推移

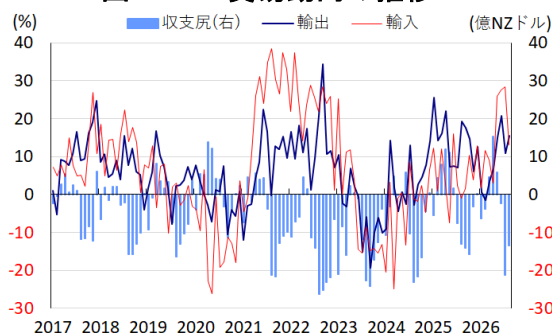


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[ニュージーランド]～乳製品、食肉、果物などで輸出は持ち直す一方、原油価格の下落が輸入を下押し～

18日に発表された8月の輸出額は前年同月比+15.4%となり、前月（同+10.8%）から伸びが加速した。前月比も+7.0%と前月（同▲4.4%）から2ヵ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、持ち直しの動きが続いている。財別では、主力の輸出財である乳製品、食肉、木材・木製品の輸出が軒並み拡大しているほか、機械製品関連や果物など幅広い分野で輸出が拡大する動きがみられる。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けのほか、ASEAN（東南アジア諸国連合）などアジア新興国向け、米国向けが減少する一方、欧州向けに底堅い動きがみられるほか、隣国オーストラリア向けや日本向けの堅調さが輸出を下支えしている。一方、輸入額は前年同月比+13.1%となり、前月（同+28.4%）から伸びが鈍化した。前月比も▲8.4%となり、前月（同+2.8%）から2ヵ月ぶりの減少に転じるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、頭打ちの動きがみられる。財別では、原油価格の下落を反映して原油・石油製品の輸入額に大幅な下押し圧力がかかったほか、機械製品関連の輸入額も頭打ちしている。その結果、貿易収支は▲13.49億NZドルとなり、前月（▲21.18億NZドル）から赤字幅が縮小した。

図2 NZ 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

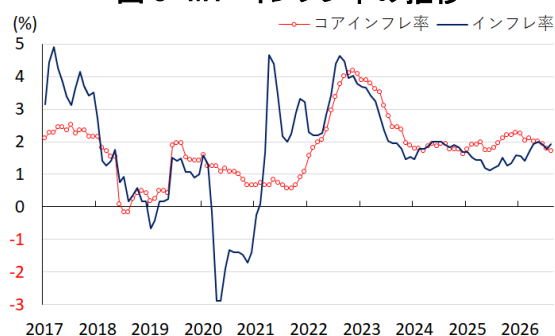
[マレーシア]～8月のコアインフレ率はわずかに伸びが鈍化も、幅広くインフレ圧力が強まる動き～

18日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+1.9%となり、前月（同+1.8%）からわずかに伸びが加速した。前月比も+0.29%と前月（同+0.00%）から上昇ペースが加速しており、原油価格の上昇が一服するなかでもエネルギー価格は上昇基調が続いているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響してい

る。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.7%と前月（同+1.8%）からわずかに鈍化し、2024年12月以来の低い伸びとなった。しかし、前月比は+0.29%と前月（同+0.00%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストが押し上げられるなか、幅広い財の価格が上昇しているほか、堅調な雇用環境を受けてサービス物価も上昇基調を強めるなど、幅広くインフレ圧力が強まる動きがみられる。

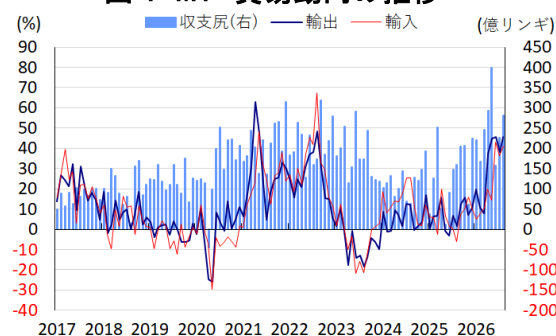
同日に発表された8月の輸出額は前年同月比+45.5%となり、前月（同+38.0%）から伸びが加速した。前月比も+1.3%と前月（同+9.8%）に続き2ヵ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、持ち直しの動きが続いている。財別では、商品市況の調整を反映して鉱物資源関連や化学製品関連の輸出に下押し圧力がかかるとともに、食料品関連の輸出も鈍化する一方、世界的なAI（人工知能）・半導体関連需要の旺盛さを反映して電子部品関連や電気機械関連の輸出は堅調に推移しているほか、原油・天然ガス関連の輸出も底堅い動きをみせている。国・地域別では、EU（欧州連合）向けや中東向けが鈍化する一方、最大の輸出相手である中国向けのほか、ASEAN（東南アジア諸国連合）向け、米国向け、日本向けなどの底堅さが輸出全体を下支えしている。一方、輸入額は前年同月比+41.1%となり、前月（同+36.3%）から伸びが加速した。前月比も+1.2%と前月（同+0.1%）に続いて3ヵ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、輸出同様に持ち直しの動きが続いている。輸出の堅調さを反映して、素材・部材など中間財の輸入が堅調に推移しているほか、資本財の輸入にも底堅さがみられる一方、消費財の輸入は対照的に力強さを欠いている。その結果、貿易収支は+280.89億リングとなり、前月（+225.33億リング）から黒字幅が拡大している。

図3 MY インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

図4 MY 貿易動向の推移



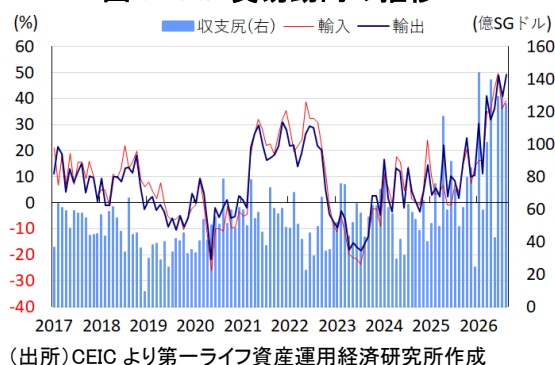
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～半導体に一服感も、化学製品関連や飲食料品関連など幅広く輸出で持ち直しが続く～

17日に発表された8月の非石油輸出額は前年同月比+46.2%となり、前月（同+24.1%）から伸びが加速した。前月比も+10.87%と前月（同▲0.34%）から3ヵ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど、持ち直しの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、電気機械関連の輸出に下押し圧力がかかる動きがみられるものの、電気バルブ関連のほか、医薬品をはじめとする化学製品関連、飲食料品関連の堅調な動きが輸出全体を押し上げている。原油関連を合わせた総輸出額も前年同月比+49.2%となり、前月（同+40.5%）から伸びが加速した。前月比も+3.2%と前月（同+0.0%）から3ヵ月連続で拡大しており、中期

的な基調も拡大傾向に転じるなど、持ち直しの動きがみられる。一方、輸入額は前年同月比+39.3%となり、前月（同+35.9%）から伸びが加速した。前月比は▲0.2%と前月（同+4.2%）から2ヵ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど、頭打ちの動きがみられる。財別では、原油価格の下落を反映して原油をはじめとするエネルギー関連の輸入額が下振れしたほか、電子部品関連や電気機械関連に加え、素材・部材関連の輸入も下振れするなど、輸出とは対照的な動きをみせている。その結果、貿易収支は+124.78 億SGドルとなり、前月（+127.93 億SGドル）から黒字幅が縮小している。

図5 SG 貿易動向の推移



以 上